

4曲の課題曲をマスター 関東地区予選に96人の申込

プレピティナ ヤングピアニスト オーディション

PTNA (全日本ピアノ指導者協会) 主催のヤングピアニスト・オーディション関東地区予選会が8月28日(日)東京池袋のヤマハ音楽センターで開かれた。今年は来年から始まる本格的コンクールをひかえ、プレコンクールとして持たれた。バロック、クラシック、ロマン、近・現代期の4つの時期の作品をひくことや課題曲発表から日数が少ないなどの条件にもかかわらず、96人の参加申込があり、また「音楽の友」や朝日新聞などで紹介されたこともあり、これを三倍する問い合わせがあった。

当日は親御さんや先生につきそわれた「ヤングピアニスト」がせいぞろい。なかには自分の番を待つ間ふるえている子がいるかと思えば、ケロツとして子供もいて表情はいろいろ。皆、自分より前の演奏者の音に熱心に聞き入っていた。

なおこの予選会の通過者数は次のとおり。()内は受験者。A級 9 (24) B級 4 (19) C級 3 (7) D級 7 (16) E級 5 (8) F級 1 (3) G級 1 (2)

採点表の欲しい人は(できるだけ先生を通じて)申し込めばコピーがもらえる。またコンクールに参加しなくても、4つの課題曲をマスターした事を各会員の先生が認めた場合は協会から履修書が与えられる。(いずれも実費負担) 予選通過者は16月・17日の本選会の出場資格がある。

関東地区予選審査を終えて

当選審査委員長 日下部憲夫

まず、感想を要約してみますと、

◎募集期間が充分でなかったにもかかわらずバロック、クラシック、ロマン、近現代の四曲をもって96名と言う、幼稚園児から一般まで広い層の数多い参加者があって、今後に明るい見通しが立ったこと。

◎当時点では入賞に至らない者の中にも、指導内容、練習方法によっては、非常に期待をもてる者が目立ってい

たこと。

◎指導上のアナリーゼ、生徒の研究心が不足していること。

◎いずれの会においても同様ですが、男子が極少であったこと。

演奏の面では、

◎バロック (BACH) について、今少し指導者の研鑽する気持ちがほしいこと。

◎ペダリング (ペダル使用法) が、非常にあいまいであること。

◎f (フォルテ) のタッチ、奏法の基礎練習が不足していること。

◎段階的練習方法に疑問が多く見られること。等々が出演者に見られる共通点でした。

バロック、クラシック、ロマン、近現代の各パートが課題として提出された以上、そこにあるニュアンス程度は年令相応の範囲表出、又努めた足跡をうかがわせてほしいし、これはレッスン内容におけるアナリーゼにかかっているということが出来ます。

弾奏における起点であるタッチについては、各生徒のもつ条件を判断した上で、順次基礎練習を念入りに行なうしか方法はなく、又ペダルについては、使用するその理由と効果の意味について把握がなされていない為に生じる結果が、感に頼った使用による不自然な楽曲として表出されているのです。

それにしてもこの会に限った事ではありませんが、指が速く動く唯それだけが理由で不相応なグレードへいどみ、入賞出来なかった者が目立つことは何んとも惜しまれます。

音楽に限らず、ものの習得には各段階時期においての《要・不要》は明確に存在しているものであって、一時期の優越感に溺れて将来をつぶしてしまうことのないように、恵まれた素質条件をもち得る生徒程、いかにして順調かつ自然な状態で育成をするか、その指導内容について、児童を囲む大人 (指導者、保護者) が考えて行かなければならない大切な問題の提起でもあります。

幼児童、生徒、学生を中心に、あるべき音楽教育の姿を追求する良き場として今後も、この会が発展する様、皆様と共に願っております。



プレティナヤングピアニストオーディション
 関東地区予選
 審査員席から

この日実際に演奏したのは79名、審査はアメリカ側よりボードウィンコンクールニューヨーク州主査の中村菊子氏を迎え、目下部憲夫氏を審査委員長に計11名でおこなわれました。

審査の約束は、1) 審査員同志絶対に口をきかない。又点数を見せ合わない。2) 採点観点は採点表による。(誌面の都合上次号に掲載) 3) 10点法を採用。4) 第一次予選通過順位を①ABCに分ける 5) 同じレベルの演奏をした場合年齢差を考慮する。などでした。また公平を期するため、参加者の演奏順位は、各級毎にくじびきで定められ、審査員には、演奏者の氏名、指導者名などは知らされず番号で呼び、白紙の状態審査に当りました。

予選を受けた方全員に、参加賞として立派な楯が送られました。また11名の採点表は希望者には、指導者を通じ本人の手に渡されますから、このオーディションが、競争のためのものではなく、向上のための一つの石礎と考えられていることがわかります。

が、オーディションの目的の一つに、かくれた才能の発掘ということもあります。今回は第一回でもなく、プレ(前という意味)でありながら、有能な以材の参加が多くみられました。

ことに、残念ながらこの予選には通過できなかった方の中にも、すばらしい才能の持主が大勢おり、指導によ

各級履習登録者

級	生徒氏名	先生氏名
B	会田雪絵 小5 戸田市	別府まり子
B	笹倉 経 中1 板橋区	牧 澄子
B	渡辺久美 小6 //	//
C	比田千佳子 中1 豊島区	//
C	飯室信久 中1 板橋区	//
C	村田賀世 中1 //	//
C	岡崎晶子 中1 //	//
C	黒川智子 中1 //	//
C	田所和枝 中1 //	//
D	矢口浩子 中2 //	//
D	相原好恵 中2 江戸川区	//
D	相原裕一 中1 //	//

って国際級にまで成長できると思われる方もいました。ちょっとした演奏技術の欠陥、曲の解釈の不適性など勉強方法によって、ぐっと延びると思います。また来年の挑戦を期待します。

審査が終って、審査員の先生方に感想をのべていただきました。

——四期に分けた出題なのどの曲も同じように弾いている子供が多い。

——ベダルの使い方を理解していない人がいる。全く指導者のあり方が一目瞭然とする。

——ミスタッチやつかえたりというのは人間誰でもあることだが、譜読みを間違えるのはどういふことか。

——最初の子測に反して級が上っていく程、内容が充実している、指導者のレベルが高くないと上級の子供を指導できないのだろう。
 ——全体的なレベルは東京としては低い。いや一般的にこれ位だと別れたようです。



A



級



B



級



C 級